

CSRに関する国際動向と日本企業の対応に関する調査研究

(報告書の概要)

現在、日本企業におけるCSRの取組みについては、コンプライアンス経営の議論の中、一部の大企業を除き十分な普及・浸透がなされていないが、企業のグローバル化に伴い、日本企業のCSR諸施策についても諸外国において、欧米企業のCSR諸施策と直接比較されるケースが頻繁に発生してきている。

企業活動のグローバル化に伴い、ISOに於いてもCSRの国際規格化の動きが着実に進んでいる。既に欧米の各企業では、CSRについての国際規格化の動きを積極的に主導するなど、グローバルな企業間競争の中でCSRを企業戦略の一部と位置づけている。

中国などのアジア諸国では、近年急速な経済発展が進展しており、各国とも高い国際競争力の維持を図っていくために、一般市民だけでなく政府までもが、社会構造安定への観点等から自国内の企業に対し労働者への待遇や労働環境等について改善を図るよう働きかけ、各企業のCSRの対応についてその動向に期待や関心を強めてきている。こうしたアジア諸国内の社会問題の変化に対し、欧米企業は着実に対応をとりはじめている一方、日本の現地法人は、欧米企業の積極的なCSRへの取組みに対し、自国（日本）本社とのCSRに関する認識のギャップ等もあり、多くの場合その対応は必ずしも十分とは言えない状況にある。こうした欧米企業と日本企業のCSR諸施策への取組みの格差により、現地法人はもとより本社企業においても、欧米企業に対する競争力の面での今後の影響が懸念される。

本調査研究では、CSRに関する日本企業の現状課題をふまえ、中国における欧米企業、日本企業および国内地場企業の環境問題を中心としたCSRの取組み状況の比較について調査を進めるとともに、日本企業に必要な対応のあり方について調査研究を行った。

(報告書の主要構成)

- 1 サプライチェーンを通じた欧米企業、日系企業のCSRの取組みの現状
- 2 ISOにおけるSRガイダンスの国際標準化の取組みについて
- 3 外国公務員贈賄防止に関する企業内意思決定の支援ツール
- 4 中国においてCSRが注目される理由
- 5 中国におけるCSRの認識の広がり
- 6 中国でCSRを推進している活動や団体
- 7 中国における日系企業のCSRの取組みの現状
- 8 中国でのサプライチェーン・マネジメントにおけるCSR（環境保全）の取組みに関する動向調査
- 9 日系企業等に求められる方向性